

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495000174	事業の開始年月日	平成22年8月1日	
		指定年月日	平成22年8月1日	
法人名	医療法人 啓和会			
事業所名	グループホーム京町			
所在地	(210-0848) 神奈川県川崎市川崎区京町3-32-1			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月30日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師と24時間を連絡を取れる体制が出来ています。また、急変時にも利用者様の状況に応じ、対応しています。医療法人の為、整形外科・歯科・内科・ものわずれ外来・皮膚科の往診があり、また、必要に応じて胃カメラなども使い、少しの変化も見逃さないよう、日々利用者様に対応しています。

地域の皆様とも連携し、町内の行事等に参加しています。ギター・大正琴・フラダンス・マジック・ハーモニカなど多数のボランティアさんが訪れています。保育園を訪ねてコンサートの見学をしたり、子供達の訪問を受けたり、楽しいひとときを過ごしています。また、アニマルセラピーで1ユニットでは猫を飼っており、皆様にかわいがられ一緒に生活をしています。音楽療法としてピアノ演奏、インストラクターによる転倒防止や呼吸法を活用した体操にも取り組んでいます。利用者様のご家族に対しては、月一度の皆様の様子を写真入りで担当者よりお手紙を送付しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月30日	評価機関 評価決定日	平成24年5月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所はJR川崎駅東口から京町循環のバスを利用し、バス停から3分の住宅街にある。建物は木造2階建てで1階が「すずらん」、2階が「ひまわり」の各ユニットで構成されている。廊下は広く、手すりがあり歩行練習もできる。1階と2階への行き来は階段とエレベーターが利用できる。隣りに同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所があり、お互いが協力関係になっていて、運営推進会議を合同で2ヶ月ごとに開催している。

【住環境と日常的な外出】
近くにコンビニエンスストアやスーパーがあり、昼食の食材や個人の買い物に出かけている。緑道や公園も近いので、天気の良い日は散歩に出かけ外気浴を楽しんでいる。

【地域交流】
京町3丁目町内会の中の京南自治会に加入し、地域の納涼盆踊り大会に入居者と職員で参加し楽しんでいる。町内会の子どもソフトボール部が毎月第3日曜日に行っている廃品回収に協力して廃品を出している。近くの京町いづみ保育園の園児が年に3~4回来てくれる。ハンドベルの演奏や歌を披露してくれたり、敬老の日には作品のプレゼントを持参してくれたりする。お礼に事業所から折り紙を届けるなどの交流が深まっている。様々なボランティアの来訪があり、大正琴演奏・ギター演奏・ハーモニカ演奏・フラダンス・手品などを披露している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム京町
ユニット名	すずらん(1F)

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人の共通な理念を玄関に掲示し、職員は日常の業務に生かし、ケアに取り組んでいる。	この事業所の理念は、法人がグループホームの理念として5年前に作成した共通の理念で、日々のケアに反映させている。理念は玄関に掲示されていて、利用者や職員はもとより、来訪者は誰でも目にすることができる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の子供達との交流、町内の盆踊り、ソフトボール部の廃品回収などに参加している。	京町三丁目自治会に加入している。利用者と共に納涼盆踊り大会に参加したり、管理者が町内会の日帰り旅行に参加し交流している。町内会の子どもソフトボール部の資源回収に協力している。京町いづみ保育園児が訪問したり、作品をプレゼントされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の食事の買い物を町内にて行い、地域に根ざし生活をしていることを感じてもらい、地域の人が相談に訪ねてきている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや町内会長、民生委員、常任理事、保健福祉、家族の代表との情報交換をしている。	隣にある同一法人の小規模多機能型居宅介護と合同で2ヶ月ごとに開催し、運営報告や意見交換、情報交換をしている。会議の中で「自治会の保健福祉の担当者も参加したほうが良い」との意見があり、メンバーに追加されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市の指定相談員の訪問、地域包括支援センターにて相談している。	川崎区役所の大師支所からの依頼で、家族介護教室の講師をした。介護関係の提出書類は区役所に直接持参して担当職員と顔馴染みの関係を作っている。川崎市の介護相談員派遣事業を受けて、介護相談員が毎月1回来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを利用して拘束する事のないよう、職員には徹底している。フロアの入口の施錠は警察のお世話になっているため、家族に現状を話し、同意の印をいただき、危険回避をしている。	グループホームとしての「身体拘束排除宣言」を作成して提示している。玄関の施錠はしていないが1階と2階の出入り口は安全のため施錠している。施錠については家族の同意を得ている。身体拘束に関する職員研修は、実施できなかった。	何が身体拘束になるのか、具体的な行為の理解を深めるため職員の内部研修を、計画的に実施されることを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを利用し、法人での勉強会、入浴時、利用者様の体のチェックをしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が利用者様でいるため協力をお願いしたり、情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の時は十分説明し、納得をしていただいてから捺印していただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意。面会に見えた時、また、家族会にて直接相談など受けている。	家族会が年2回、納涼会とクリスマス会との組み合わせで開催されている。意見箱も設置しているが特に意見は寄せられていない。運営推進会議に家族も参加している。家族の意見を受けて夕食の時間を17時から17時20分に変更した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるミーティング、毎日の申し送りにて意見や気が付いた事を打ち合わせして実行している。	ケアに関する職員意見やアイデアなどが連絡帳に記入でき、申し送りの会議で意見交換している。月1回の職員ミーティングでも職員の意見が出るので実務に反映している。年に1度個別面談を行い、処遇改善のための希望・意見を聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や各職員に処遇改善のための行動を起こし、研修を進めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	玄関入口の掲示板に研修の案内を掲げ、参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービス、小規模多機能サービス、他のグループホームに研修に行ったり、協力をお願いしたりしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や御家族の希望を傾聴し、安心して生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何事も話しやすい雰囲気づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要と思われた時は、相談に乗っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩の言葉とし、分からないことを教えてもらい、良きパートナーとして意識している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭やクリスマス会などに参加してもらい、家族の関係を認識していただく。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の人との外出、友人からの手紙やFAX、訪問によって絆をつないでもらう。	入所前からの知人が訪ねてきて、居室で談笑している。来所者がゆっくり談笑できるよう職員がお茶を出したりして、馴染みの関係継続の支援をしている。家族対応でお墓参りや住んでいた家へ行くなど馴染みの場所に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立しないようフロアでの席の交換、趣味のあう人同士でのアクティビティ、料理など行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によって契約終了後も御家族に連絡を取り、お元気で変わらないか様子を伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の訴え、意向を聞いて支援している。	職員は担当制なので利用者の日常をよく承知している。職員は、日々のケアの中で希望を聞いたり様子から汲み取ったりしている。家族からも本人の希望を聞いている。担当職員が写真入りの手紙を作成し、家族に送付している。	
24		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時に本人や家族よりの生活歴を聞き、それに沿うように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、一人ひとりの体調、精神面を把握して、その人に合った生活をするよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態に応じ、医療関係や家族、ミーティングなどでのスタッフの意見を聞き、見直しをしている。	毎朝の申し送りで、担当職員が利用者の状態を報告し職員間で情報を共有している。計画はおおむね6ヵ月ごとの見直しであるが、状態の急変時や利用者からの希望により職員で話し合い見直しをしている。サービス担当者会議には家族は参加していない。	計画見直し作成の段階で、家族を交えて意見を出しあい協議し、関係者と話し合い、介護計画の作成に取り組まれることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間と昼間の記録は時間と色にて区別され、共有されている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	救急、通院など家族に連絡し、出来る限りホームで協力をしている。個人の行事の時は支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアなど、町内の人との連絡を密にし、行事に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間医療機関の訪問看護師に相談や指示を受け、利用者様の急変時、協力をお願いしている。毎日のように往診があり、体調の変化もスムーズに行われている。	利用者は入所後、協力医の受診となっている。協力医は往診で2~3人を診ているので、ほぼ毎日往診している。何かあればすぐに相談できる。協力医療機関には眼科を除き、全ての診療科目があり対応している。眼科も協力医の紹介により受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様の状態に応じ、担当医・看護師に直接相談したり、24時間オンコールによって、看護師に訪問や相談している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様を訪問し、入院先の担当医・看護師と相談し、退院にむけての情報交換をしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化や終末期については御家族、医療機関との対応をし、職員も方針を理解している。</p>	<p>重度化に関しては「重度化した場合における（看取り）に関する指針」を作成し、利用者と「グループホーム京町医療連携体制（看取り）同意書」を取り交わしている。24時間看護師との連絡が可能な体制になっている。</p>	<p>重度化した場合や終末期の対応についての職員研修に取り組み、看取り経験のない職員も知識を深める機会を増やすことを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時、急変の連絡体制は出来ている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1回の避難訓練。昼間・夜間の状態を作り出し、消防署の立会にて指導、訓練を行っている。</p>	<p>自主防災組織をつくり、毎月1回の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練にも取り組んでいる。地震を想定した訓練はまだ取り組んでいない。年に1回は消防署員の立ち会いのもと実施しており、今年は、水消火器の指導を受けるなどの内容であった。水や食料、日常消耗品などの備蓄をしている。</p>	<p>地震や火災などの災害時に地域とどのように連携しているか、職員や運営推進委員との話し合いの機会をつくり、検討されることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや何を訴えているのか傾聴し、尊重する対応をしている。	新人研修で、人格の尊重やプライバシーの確保について取り上げている。利用者には個人情報の利用目的について説明し、同意を得ている。個人情報は施錠したロッカーで管理されている。接遇やプライバシーについては管理者が指導している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けのあいさつから始まり、本人の性格などを考え、話しやすい環境をつくり出すよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操、ストレッチの時に回想法にて話しかけ、食事は何を食べたいか、メニューを聞いたり、今日の一日の流れを話している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度～2度の訪問美容を行い、個人によっては外出して美容室に行ったり、ヘアのゴムやしぼり方も本人の指示を聞いて行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	翌日の昼食のスーパーへの買い出し、レストランでの外食、野菜切り、配膳、おしぼり作りなど参加してもらっている。	朝夕の献立は業者作成のもので食材も業者から届く。昼食の献立は食事内容が重ならないように配慮しながら担当職員が毎週作成し、手作りしている。昼食のみ食材を利用者と共に毎日近所のスーパーで購入している。利用者の好みは昼食に反映している。準備や片づけを職員と一緒にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に応じて、トロミをつけたり、水分量の足りない人は声掛けにて摂取出来ている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをし、嚥下困難のある利用者様は全介助にて対応。義歯は夜預かり、薬剤洗浄している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し、その人にあったパターンにて便座への誘導支援をしている。	排泄チェック表を記入し、様子や時間をみてトイレ誘導して、トイレでの自立排泄を支援している。他施設から入所した方で、入所時は大きな尿取りパットを使用していたが、小さいパットに変わり、現在はおおむね布パンツになった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品、運動、服薬、食事などにて、その人に合った対応をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その人の希望、体調をみながら原則に従い、行っている。	入浴は、週3回午前と午後に分けて入っている。入浴を好まない方もいるので入浴剤を入れて「温泉ですよ」と言って興味を持ってもらうようにしている。入浴後は「きれいになっていいにおいね」などと声をかけて、入浴を楽しめるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に熟睡できるよう、昼間の活動を多く持ち、体調に応じ居室にて過ごされたり、休憩を取ったりしてもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを保管利用し、変化があればドクターに相談、副作用などは薬局に連絡し、指導を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意部分を引き出し、洗濯、そうじ機かけ、歌、折り紙など支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、緑道への散歩、ドライブ、遠出の時は、家族の協力、参加をしてもらっている。	毎日の昼食の食材を買いに近くのスーパーに出かけたり、ドライブしながら業務スーパーまで出かけている。近くの緑道や公園まで散歩に出たり、行事のない月には外食に行っている。家族と墓参りに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は管理してもらい、買い物の時、買いたいものがあれば預かりから本人が支払っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋、ハガキの用意にてお便りを出したり、電話をかけて話せるようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人で作成した作品を季節ごとに掲示したり共同の作品を掲示して安心、ゆとり感を味わってもらっている。	居間兼食堂は採光がよく明るい。エアコンや加湿器で空調管理をしている。夏にはゴーヤを植えグリーンカーテンを作った。季節の行事に合わせた飾りをして季節感を出している。ベランダでは日光浴ができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い建物の横にベンチを置いたり、気の合った人間が集まれるよう、テーブルの設定、長椅子を用意している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を入居の時持ってきてもらい、家族と相談して配置を決めてもらっている。	居室には使い慣れた机や椅子が置かれたり、家族の写真や仏壇を置いている方など、それぞれが居心地よく過ごせるように配慮されている。居室で猫を飼っている方が一人いて、入居者のペットになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の入口には、本人が分かるよう表札をつけ、バリアフリー手すりなどで自由に行動してもらっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495000174	事業の開始年月日	平成22年8月1日	
		指定年月日	平成22年8月1日	
法人名	医療法人 啓和会			
事業所名	グループホーム京町			
所在地	(210-0848) 神奈川県川崎市川崎区京町 3 - 3 2 - 1			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

24時間訪問看護を受け入れし、急変時には利用者様の状況に応じ、対応している。医療法人の為、整形外科・歯科・内科・ものわすれ外来・皮膚科の往診があり、胃カメラにて変化を見逃さないよう、日々利用者様に対応しています。地域の皆様と連携をし、町内の行事等に参加し、ギター・大正琴・フラダンス・マジック・ハーモニカのボランティア、保育園に訪ねてコンサートに参加したり、子供達の訪問を受け、楽しいひとときを過ごしている。また、アニマルセラピーで1ユニットでは猫を飼っており、皆様にかわいがられ一緒に生活をしています。月一度の皆様の様子を写真入りで担当者よりお手紙を送付しています。音楽療法でピアノ演奏、インストラクターによる転倒防止の体操に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月30日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム京町
ユニット名	ひまわり(2F)

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人の共通な理念を玄関に掲示し、職員は日常の業務に生かし、ケアに取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の子供達との交流、町内の盆踊り、ソフトボール部の廃品回収などに参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の食事の買い物を町内にて行い、地域に根ざし生活をしていることを感じてもらい、地域の人が相談に訪ねてきている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや町内会長、民生委員、常任理事、保健福祉、家族の代表との情報交換をしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市の指定相談員の訪問、地域包括支援センターにて相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束のマニュアルを利用して拘束する事のないよう、職員には徹底している。フロアの入口の施錠は警察のお世話になっているため、家族に現状を話し、同意の印をいただき、危険回避をしている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待マニュアルを利用し、法人での勉強会、入浴時、利用者様の体のチェックをしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人が利用者様でいるため協力をお願いしたり、情報提供している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約の時は十分説明し、納得をしていただいてから捺印していただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を用意。面会に見えた時、また、家族会にて直接相談など受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるミーティング、毎日の申し送りにて意見や気が付いた事を打ち合わせして実行している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や各職員に処遇改善のための行動を起こし、研修を進めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	玄関入口の掲示板に研修の案内を掲げ、参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービス、小規模多機能サービス、他のグループホームに研修に行ったり、協力をお願いしたりしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や御家族の希望を傾聴し、安心して生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何事も話しやすい雰囲気づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要と思われた時は、相談に乗っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩の言葉とし、分からないことを教えてもらい、良きパートナーとして意識している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭やクリスマス会などに参加してもらい、家族の関係を認識していただく。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の人との外出、友人からの手紙やFAX、訪問によって絆をつないでもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立しないようフロアでの席の交換、趣味のあう人同士でのアクティビティ、料理など行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によって契約終了後も御家族に連絡をとり、お元気で変わらないか様子を伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の訴え、意向を聞いて支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時に本人や家族よりの生活歴を聞き、それに沿うように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、一人ひとりの体調、精神面を把握して、その人に合った生活をすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	利用者様の状態に応じ、医療関係や家族、ミーティングなどでのスタッフの意見を聞き、見直しをしている。		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	夜間と昼間の記録は時間と色にて区別され、共有されている。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	救急、通院など家族に連絡し、出来る限りホームで協力をしている。個人の行事の時は支援を行っている。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地域のボランティアなど、町内の人との連絡を密にし、行事に参加している。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	24時間医療機関の訪問看護師に相談や指示を受け、利用者様の急変時、協力をお願いしている。毎日のように往診があり、体調の変化もスムーズに行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様の状態に応じ、担当医・看護師に直接相談したり、24時間オンコールによって、看護師に訪問や相談している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様を訪問し、入院先の担当医・看護師と相談し、退院にむけての情報交換をしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化や終末期については御家族、医療機関との対応をし、職員も方針を理解している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時、急変の連絡体制は出来ている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1回の避難訓練。昼間・夜間の状態を作り出し、消防署の立会にて指導、訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや何を訴えているのか傾聴し、尊重する対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けのあいさつから始まり、本人の性格などを考え、話しやすい環境をつくり出すよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操、ストレッチの時に回想法にて話しかけ、食事は何を食べたいか、メニューを聞いたり、今日の一日の流れを話している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度～2度の訪問美容を行い、個人によっては外出して美容室に行ったり、ヘアのゴムやしぼり方も本人の指示を聞いて行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	翌日の昼食のスーパーへの買い出し、レストランでの外食、野菜切り、配膳、おしぼり作りなど参加してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>嚥下状態に応じて、トロミをつけたり、水分量の足りない人は声掛けにて摂取出来ている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアをし、嚥下困難のある利用者様は全介助にて対応。義歯は夜預かり、薬剤洗浄している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表を利用し、その人にあったパターンにて便座への誘導支援をしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分、乳製品、運動、服薬、食事などにて、その人に合った対応をしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>その人の希望、体調をみながら原則に従い、行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間に熟睡できるよう、昼間の活動を多く持ち、体調に応じ居室にて過ごされたり、休憩を取ったりしてもらっている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬のファイルを保管利用し、変化があればドクターに相談、副作用などは薬局に連絡し、指導を受けている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その人の得意部分を引き出し、洗濯、そうじ機かけ、歌、折り紙など支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物、緑道への散歩、ドライブ、遠出の時は、家族の協力、参加をもらっている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で管理できる人は管理してもらい、買い物時、買いたいものがあれば預かりから本人が支払っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋、ハガキの用意にてお便りを出したり、電話をかけて話せるようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人で作成した作品を季節ごとに掲示したり共同の作品を掲示して安心、ゆとり感を味わってもらっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い館物の横にベンチを置いたり、気の合った人間が集まれるよう、テーブルの設定、長椅子を用意している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を入居の時持ってきてもらい、家族と相談して配置を決めてもらっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の入口には、本人が分かるよう表札をつけ、バリアフリー手すりなどで自由に行動してもらっている。		

目 標 達 成 計 画

医療法人 啓和会
事業所名 グループホーム 京町

作成日 24年5月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除宣言を作成し提示しているが、内訳研修に参加していない。	24年度は内訳研修に参加し、身体拘束に関して各自のスキルアップすること	毎月協和会の手で勉強会を行っていき、23年度の始めた身体拘束の勉強に参加する。	24年6月に勉強会を予定している
2	25	災害対策	毎月1回の避難訓練を行っているが、地震の時の避難訓練も行っている。	避難訓練は火事の時と、地震の時、両方と交差で練習する。24年は一度練習を行っている。	毎月交差で訓練をする。
3				行不明の時の利用者名簿を毎直入りを抱込支援センター、協和会の会長に渡し、事故が発生した時協和会に報告すること。	
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。